

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 稲城市立稲城第三小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0801

稲城市大丸100番

E-mail inagi3el0001@educet01.plala.or.jp

Website http://academic3.plala.or.jp/inagi3el/

幼児児童生徒数 男子 271名 女子 264名 合計 535名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は、「互いに認め合う三小の子」を学校の重点テーマとして、人権教育をESDの中心として捉え、ESDの実践を通して他者を理解する態度の育成を目標とした。

具体的には、福祉教育、日本の伝統文化、人権についての学習を柱に、①全校での人権教育への取組み ②障害のある方との交流、③ハンセン病の学習 を行った。

### ①全校での人権教育への取組み

・人権集会 学期に1回学校長による全校児童への人権講話を行っている。また代表委員会による人権集会もあり、その集会を受けて、学級ごとに人権について、話し合いをしたり、感想を書いたり人権について考える時間をもっている。

・人権掲示板 本校には全校児童が通る2階廊下に人権掲示板がある。全学年が人権に関する学習での学びを掲示する。児童の活動の場や学習の紹介だけにとどまらず、学校を訪れる方へ、人権についての学びを発信する場になっている。

・人権の花 人権の花として栽培委員会を中心に、児童が花を育てている。育てた花には植木鉢に児童一人一人が人権メッセージを書き込む。花は学区内の地域のお世話になった方や、施設や店舗におくっている。町に人権メッセージがあふれ児童と町の人をつないでいる。

## ②障害のある方との交流

総合的な学習の時間に、視覚障害、聴覚障害の方たちからお話を伺い、車椅子や白杖体験をしている。障害のある方への理解を深めるとともに、どのように接することが相手を思いやることなのかを考え学んでいる。自分たちの生活の中で、障害のある方都の生活は何も徳熱奈者ではないことを知り、児童はどのように障害について考えればよいかを考えた。思考ツール等を活用し、批判的に考える力や多面的に考える力など、思考を深める場面を多く取り入れている。

## ③ハンセン病の学習

本校では毎年6年生がハンセン病についての学習を進めている。道徳の資料での人権について考える授業から、実際のハンセン病資料館見学や、ハンセン病の方の話を聞くことで、患者の方が受けた差別や、生活面での苦労について考えた。差別に対して個々に考えをもち、自分はどういうに行動すればよいか、考えることができた。また、将来に向けて他者を理解する心が育った。

学習の中ではハンセン病だけに留まらず、世界の人権問題にも視野を広げ、広く多面的に物事を見て、人権問題の歴史を批判的に考えることで未来の世界の姿についても考える場面があった。



③ 人権揭示板



③ハンセン病資料館



① 白杖体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 集会 等 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

稲城市社会福祉協議会からいただいた資料 ハンセン病資料館
---------------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

稲城市では全小学校がユネスコスクールへ登録をして、全市でESDに取り組んでいる。教委課程でもESDの全体計画やESDカレンダーなどを提出し、教区課程に位置づけて取り組みを進めている。本校では人権推進校として取り組んできた時期があるため、人権についての教育活動が多く、年間を通して行われてる。また、多面的な総合的に考える力やコミュニケーションを行う力など子供達の求められる資質については、新指導要領の内容に合わせて、校内研究でも取り上げ、主体的な学びや6つの資質・能力についても意識して取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD委員会が校務分掌の中に位置づけられていて、その部署を中心に取組みを進めている。また、ESDカレンダーによって学習内容のどれがESDにあたるかがわかるようになっている。教職員の異動が繰り返される中、どのように継続してESDの活動を伝えていくかは、現在でも大きな課題となっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価は学校評価の中で行っている。

成果としては、人権教育の内容が継続的に進められている点であり、教材や資料等もそろっていて、すぐに活動に移せている点である。  
課題は、ユネスコスクールやESDの内容や意味、取組みが正確に伝わっていない点である。異動が繰り返される中で、しっかりとした体制作りが必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD 自体を知らない教員が多い中、本校には ESD カレンダーや全体計画もあり、その学びや資質・能力については整理して伝える機会になっている。  
新指導要領に向け校内での研修にも取組み始めている。「資質・能力」については、ESD の概念や能力・態度と共通する部分が多く、同じ理解で、授業作りを進めることができている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特にしていません

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

稲城市内のユネスコスクールとは市 ESD 委員会を通して情報共有している。市内ユネスコスクールでは年に一度 ESD 展示会を開き、市民にも発表している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールではないが、ESDは稲城市の特色ある教育として、本校の学校経営方針にも盛り込まれている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度実施してきたESDに関わる内容について、ESD推進委員会を中心に再整理をする必要があると感じている。ESDについて再度、研修会をもち、全教員で共通理解すること、ESDカレンダーの中身を再度確認すること等が考えられる。特にESDカレンダーについては、内容が現在の授業や教育活動にあっているか、活動だけではなくその学習で身に付ける資質・能力は適切なものか。その点について整理をし、作成し直そうと考えている。

また、計画通りの決まった授業だけではなく活動に広がりが出るように、総合的な学習の時間を中心に、教材を開拓し、ESDの概念・資質能力により触れられるような内容に変えていきたい。